

長沢鼎英文日記（三）

長 沢 鼎 著
門 田 明 訳

長沢鼎英文日記（一）鹿児島県立短期大学地域研究所年報 第23号（1994）

目 次	ページ
まえがき	1
1871年 1 月	2
1871年 2 月	12

長沢鼎英文日記（二）鹿児島県立短期大学地域研究所年報 第26号（1997）

1871年 3 月	81
-----------	----

1871年 4 月

4 月 1 日（土）

ダビー小母さんは、新井とアイダーを、朝食後例の家に連れていった。それで、私が家事全般をしなければならなかった。ファーザーは、ほとんど一日中、とても苦しんでいた。エモーさん（Mr Emore）、バリー夫妻ともう一人の人が、証書を作成するためにここにやって来た。ファーザーは昨日スプリステッドの農場も購入し、その支払いなどをした。フレドニアから、あの〈たが〉をはめる職人がファーザーに会いにやって来た。私はモーニーと新井に、チャペルのことで女の人の手伝いをさせたが、カズン・グレイスがそんな必要はないと考え、彼らは家に帰ってきた。

4 月 2 日（日）

はじめは曇っていたが、9時頃晴れ上がって、とても良い天気の日になった。私はジョンとヴァインクリフに行った。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんが、行っても大丈夫だろうと思ったからだ。ファーザーは、キリストが一人の幼子を抱き上げて「まことに汝に言う。悔い改めて、幼子の如くならざれば、天の国に入るあたわず」といった聖書のあの箇所を読んだ。主題はこの前のものと似ていたが、祈祷が実に素晴らしかった。外から来た参列者は、この前の日曜より多かった。他の人にまじって、モス夫妻、チェスター・ブリントンさん（Mr. Chester Brinton）も居た。ファーザーは一人で歩いて帰り、ゴールデン・ローズ小母さんと私は、軽馬車に乗って家に帰った。ダビー小母さんはヴァ

インクリフに泊まった。引っ越しやその他、見ておかないといけないことが、いくつかあったからだ。夕食後私は、ダンディと一緒に、ダビー小母さんをつれに行ったところ、小母さんはエマソンの人達と一緒に、グッドウィン・ハウス（Goodwin House）の近くの畠に居た。彼女はヴァインクリフとバードネストと酪農場に行き、私は、バードネストと、それから小母さんの使いでロッジに行った。私たちが戻った時ファーザーは眠っておられた。私はひどく疲れていた。それで、ダビー小母さんと特にゴールデン・ローズ小母さんから、自分の体に気をつけない不注意者だ、とこっぴどく叱られた。

4月3日（月）

ファーザーは7時の汽車でバッファローに行った。ダビー小母さんと新井とアイダーは、バリーの屋敷に行った。そして一日中、水しっくいを塗ったり、壁紙を張ったり、引っ越しをしたりなどして働いた。私たちは、ニューヨークから箱を一つ受け取った。私は自分の弱さを考え、みじめで絶望的な気分だった。私はほとんど一日中、ゴールデン・ローズ小母さんからひどく叱られた。雨がずっと降っていて、たまらなくみじめだった。ファーザーは7時の汽車でバッファローから戻ってきた。新井は、ゴム靴と雨合羽を持って、レストランに彼を迎えに行った。

4月4日（火）

ファーザーは少し良い方だ。私は、ワシントンから、先生がた宛の公文書を受け取った。ゴールデン・ローズ小母さんは、それをファーザーに手渡した。彼女は、ファーザーが政府あてに、その返事をするだろうと言った。野村が森宛の手紙を一通持って来た。前の月曜日野村宛にきた公文書に対する返事であった。

4月5日（水）

今朝ファーザーはウッドバイン小父さんから電報を受け取った。それによると、彼は無事ステイトン・アイランド（Staten Island）に到着したが、悪疫がはやっていて、船が検疫中という話だ。大工たちは全員、バリーの屋敷で非常に一生懸命働いている。今日はファーザーはとても具合が良くて、排水の仕事をせっせとやっていた。しかし、彼はソファに横になり、深い瞑想状態になった。で、私は気分が前よりずっとよくなった感じがするので、バウアーのところまで、寝に行かねばならなかった。丁度私が床についた時、ゴールデン・ローズ小母さんが馬のことなどでやって来た。それで私たちは、ほとんど12時になるまで床につかなかった。大気はかぐわしく芳香をはなち、美しい（不明）だった。

4月6日（木）

一階に下りたら、ファーザーとダビー小母さんがいた。ファーザーとダビー小母さんと

ゴールデン・ローズ小母さんは、ホテルに夕食に出掛けた。今朝アイダーが、ここにずっと居るのが良いか、居ないのが良いか、母親の意見を求めるためここを発ったからである。新井と私は家で夕食をとった。私はバウアーの脇の小さな庭に、レタス、パセリなどいく株か植えた。ファーザーは、明日ここに着くという、ウッドバイン小父さんからの二通目の電報を受け取った。

4月7日（金）

度はずれて暖かい天気だ。ファーザーは体の具合が良く、溝を掘る仕事にかかりきっていた。新井とアイダーは、ウッドバイン小父さんの部屋を整えるために出掛けた。新井と私は、夕食のため、ホテルに出掛けた。ファーザーとダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんは、ウッドバイン小父さんを迎えに出掛け、家での仕事の手数を省くために、そのままホテルで彼といっしょに夕食をとった。夕食後、私はバウアーに行き、ウッドバイン小父さんの部屋の仕上げをした。それから私はアイダーがまだ仕事をしているかどうか見に、バリーの屋敷屋へ行った。私はあまり何もせず、そこに留まっていた。私がグレンサイドに戻ったのは、大体5時30分頃だった。私はウッドバイン小父さんに会い、小父さんの慈しみ深い腕の中に飛びこみ、小父さんを抱擁した。ファーザーも、皆も、彼がまた帰ってきて会うことが出来て、大変幸せに感じている。彼らはバウアーやバリーの屋敷の周辺を散歩した。その間、私はウッドバイン小父さんの荷物を取りにレストランまで出掛けた。

4月8日（土）

ダビー小母さんとウッドバイン小父さんは、医者の方先生の方診察をうけに7時に汽車でウエストフィールドに行った。ファーザーは、遅くなるまで起きてこなかった。私はバンクステンに言って、バウアーのところからバリーの屋敷へ、いくつか物を持って行かせた。そこから戻ってきて、私は夕食用の肉を手に入れるため、村に行った。ファーザーは、排水溝をつくるのにかかりきりで、忙しくしていた。ダビー小母さんとウッドバイン小父さんが、12時の汽車で帰ってくることになっていたから、ファーザーは、彼等といっしょに夕食をとるため、レストランに行った。新井と野村と私は、午後チャペルの掃除をした。私はローザといっしょに馬に乗って行き、とても愉快だった。ローザはいろいろニュースを仕入れに村に行くところだった。今夜お茶の後、私はとても疲れ、消耗しきっていた。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんは、私が傲慢で、体がもたない程働いたといて、ひどく私を叱った。私はとても悲しくて、泣いてしまった。それでダビー小母さんは、何故彼らが私のことをそれ程心配しているか、こまごまと説明してくれた。

4月9日（日）

復活節。とても暖かい。教会は満員だったが、席を増やして、結局皆坐ることができた。礼拝が終わり夕食前になって、ファーザーは苦しんでいた。ウッドバイン小父さんは、腰痛と頭痛だった。ゴールデン・ローズ小母さんと私は二人とも、ひどく眠かった。私も頭痛がした。ファーザーは「自分は人々が与える重荷を担うのは慣れているが、今それを完全に切り離し、日曜に人々が自分から生命力を受け取れるようになった。とにかく人々はそれを避けることはできない」と言った。ファーザーは、ウッドバイン小父さんと、パリに行く計画について、今夜話合っていた。今日私は雌馬に乗って、レストランに肉を仕入れに行った。私が戻って来てみると、馬は綱を解いて逃げてしまっていた。ダビー小母さんは私を行かせようとしなかった。小母さんは（不明）して、私にほうり投げたのだ。ファーザーが部屋に入ってきて、「お前は安静にしていないといけない。もうじき、また魚釣りに連れて行こうと思っている」と言った。ファーザーの説教は（不明）。

4月10日（月）

昨晚ファーザーは、ヨーロッパに行くことなどについて、随分話合いをされた。彼らは2時まで起きていた。ウッドバイン小父さんは、レストランに行って朝食をとった。そこで、なにか聖務があったからだ。ウッドバイン小父さんは、昼までに手紙を何通か書いた。（クアシュート）小父さん（Uncle Kwasuit）が、ファーザーとウッドバインが彼と話したがっていると聞いてやって来た。ダプリンさんもやって来た。ダビー小母さんは彼に彼らがヨーロッパに出掛けることを話した。フォスターさんとダビー小母さん、ゴールデン・ローズ小母さん、ウッドバイン小父さんが、夕食をとりにホテルに行った。私は、新しい家に使うスクリュエねじを買いに、村まで行った。私は今日、ゴールデン・ローズ小母さんから彼らがヨーロッパに行くことについて教えられた。ウッドバイン小父さんと私は、森に一通手紙を書いた。私は沢井のことでダビー小母さんの手伝いをした。

4月11日（火）

ファーザーは、とても気分が良いようだ。ここにいる最愛の人たち皆がそうだ。私は森から手紙をもらった。それによるとクンダ（Kunda）、スギ（Soogi）、マツ（Matz）、が皆あちらにいるという。またウッドバイン小父さんのことも手紙で尋ねている。私の心は沢井のことで一杯で、何事もあまり手につかなかった。今日は、私たちは皆、いっしょにホテルで夕食をとるために出掛けた。午後ファーザーは外出した。ダビー小母さんは、彼らがヨーロッパに行くことをビオラに話すため、ヴァインクリフに行った。私は村に、〈掛けがね〉などを買いに行った。私は家庭用品店にいた時、ビオラ小母さん、グレイス小母さんと会った。それでダビー小母さんがヴァインクリフに居ることを、彼らに教えた。すると彼らはすぐに戻って行った。今夜ウッドバイン小父さんとゴールデン・ローズ小母

さんは「沢井がすぐやって来るかもしれない。それは（不明）から彼を解放するためだ。今は万事が彼の益になるどころか害になっているからだ。そんな気がする」といった。ダビー小母さんも口をはさんで、「森に来るよう電報を打つのが目的なのかどうか、ファーザーにたずねてみるつもりだ」といった。

4月12日（水）

ファーザーは私たちに、電報を打つように言った。が、その回答は「今すぐ来ることは出来ない」というものだった。ファーザーは気分がすぐれぬ様子だ。彼らは皆、夕食のためホテルに行った。私はあまり何もしなかった。ウッドバイン小父さんは村に出掛け、彼の旧友、リクイアン（Rycjuian）等に会った。ウッドバイン小父さんと私は、ニューヨークから届く箱をとりに駅に行った。

4月13日（木）

ファーザーは、沢井のことで大変気をもんでいた。ファーザーは、フロレッタ小母さんとローザ小母さんと呼んだ。ファーザーは、そこで彼らに「私たちは皆出掛けることになるので、沢井の世話をできるだけ早くしてやらないといけない」と言った。私は、彼らと駅に出掛けた。彼らがエマソンさんに「こちらに来るように。ただし『召使』はつれてくるな」と電報を打つためだった。今日私は、沢井のことでどうにもこうにも頭が一杯だった。野村がやって来て、夜遅くまで、私と英語で話した。

4月14日（金）

ファーザーは今日、鉦夫たちに葬儀の説教をするよう頼まれた。私はバードネストに行つて、あるかぎりの賛美歌の本をとって来た。私はゴールデン・ローズ小母さんを酪農場につれて行った。新井と私は、いくつかの物を木材運搬車につんで、ヴァインクリフに行き、ダビー小母さんのトランクと賛美歌の本を持って帰った。ウッドバイン小父さんは、今日昼ニューヨークに電報を打ち、関税のことと、部屋を手に入れること、などの問い合わせをした。ダビー小母さんは、明日の賛美歌の練習をしに、フォースター先生とヴァインクリフに出掛け、私は酪農場に行き、タンポポを少しつんだ。

4月15日（土）

ファーザーは苦しんでいたが葬式に出掛けた。新井と私はヴァインクリフに行き、チャペルの掃除をした。ウッドバイン小父さんは、沢井から手紙を受け取ったが、それには何故彼が来れないか述べてあり、またクオダ（Kuwoda）がアメリカとイギリスに派遣された弁務官であること、皆（不明）と述べてあった。ウッドバイン小父さんとファーザーは、日本のこと、またフランスでの戦争のことを、あれこれ沢山話し合っていた。私は明日使

う賛美歌のコピーをつくった。ウッドバイン小父さんは、リードさんに、バラキア号（Balakia?）の二等船室を取るよう電報を打ったが、うまく取れ（なかつ）たという返事を受け取った。

4月16日（日）

ファーザーはとても神経質になっていた。私はコテージに行って、フロレッタ小母さんに「昨日エマソンさんといっしょに来たあの女の子を、親切に世話してもらいたい。しかし彼らは三列目の席に坐らないといけない」と言った。チャペルは満員の混雑であった。そして、ファーザーは大変素晴らしい説教をした。ホール先生はウエストフィールドから5、6人連れてきていた。礼拝後、私たちは皆疲れ切った気持ちだった。ファーザー、ダビー小母さん、ウッドバイン小父さんと私は、午後睡眠をとった。ウッドバイン小父さんは、沢井にとっても良い手紙を書いた。彼はとてもひどい頭痛と腰痛になり、とても哀れな様子だった。彼は十日もここに滞在するのは長すぎると感じているようだ。

4月17日（月）

私は汚れた服とカーペットをもって、バードネストに出掛けた。それから、ヴァインクリフに行き、そこでチャペルから椅子をとって、南農場に運んだ。私が戻ってきた時、ウッドバイン小父さんに、リードさんが情報を伝える電報が、（不明）から届いていた。私たちは、皆ホテルで夕食をとった。ファーザーは、ずっと、とても苦しんでおり、どこへも行ける状態でなかった。私は、ウエストフィールドのブリテンさん（Miss Britain）のところと、ホール先生のところに行った。私が夕方グレンサイドを出た時は、ファーザーはとても幸福そうだった。ファーザーはバクガモンをして遊んでいた。野村はここにいた。野村は私に（不明）に手紙を受け取ったことを教えてくれた。

4月18日（火）

ファーザーとダビー小母さんは7時の汽車で、バッファローに行った。新井と私はホテルで夕食を食べた。ペンキ屋の（不明）さんは、ファーザーの説教について意見を述べ、どんなに聴衆が説教を喜んだか、話してくれた。ゴールデン・ローズ小母さんは、歯医者とホール先生に診てもらうために、2時の汽車でウエストフィールドに行った。ウッドバイン小父さんは、ほとんど一日中家にいた。ダビー小母さんは私たちに、彼女がファーザーの肖像画を画いてもらうこと、またこまごましたものを沢山買うこと、など話してくれた。ウッドバイン小父さんは、ファーザーとダビー小母さんをいっしょに連れて来た。またもう一度行って、ゴールデン・ローズ小母さんを連れて来た。私はほとんど一日がかりで、ゴールデン・ローズ小母さんの部屋を掃き、奇麗に掃除をした。それからあとは、一日読書で過ごした。今夜、ゴールデン・ローズ小母さんは私たちに「日曜にファーザーの説教

を聴きに来た人たちが皆、ホール先生もヘミング（Heming）も含め、彼の説教について知ってどれほど感銘を受けたか、話していた」と教えてくれた。

4月19日（水）

ゴールデン・ローズ小母さんは私たちに、昨夜彼らが、ファーザーをつれて帰るのにどんなに時間がかかったか、話してくれた。彼は、エマソンさんのことで、とても苦しんでいたのだ。ファーザーは人間として、もう消尽しつくしたように見える。今日は雨だったので、私たちの誰も夕食にホテルへは行かなかった。私たちは2羽あひるを殺した。ウッドバイン小父さんは、ずっと以前、ファーザーのところにやって来た官吏のために、回答を書きはじめた。私たちは、野村のことで多少頼みごとがあるので、野村に会いにヴァインクリフに行った。私はゴールデン・ローズ小母さんを酪農場に連れていった。新井と私は、ファーザーのカーペットを取り払って、代わりにマットを敷いた。ウッドバイン小父さんは、主として、ビジネスの問題にかかりきりだった。

4月20日（木）

ウッドバイン小父さんとゴールデン・ローズ小母さんは、今朝バッファローに出掛けた。ダビー小母さんは、今朝は、私たちと一しょに朝食をとった。ファーザーは、遅くなるまで起きて来なかった。朝食前、何か心の葛闘があったのである。ダビー小母さんと私たちの残りの者は、ファーザーの居間の掃除に従事し、荷物を二山、ヴァインクリフに運んだ。ファーザーは多少疲れていて、一日中、長時間の外出はできなかった。私は、ウッドバイン小父さんとゴールデン・ローズ小母さんの代わりに、駅に行った。私は、野村が言っていたいくつかの事柄について話した。ウッドバイン小父さんは、沢井から手紙を受け取ったが、それによると、スギとマツはワシントンを去った由である。クラダ（Kurada）は、キャピン（Capin）という人物を、農務省から年俸10,000ドルで雇入れた。ファーザーとダビー小母さんとウッドバイン小父さんは、聖務を捨てた日本人たちのことについて、沢井の手紙と関連して、随分話していた。私は日本人たちのことで、このところ、長く苦しい夜を送ってきたが、その中でも一番苦しい一夜を過ごした。

4月21日（金）

ウッドバイン小父さんは、ダンディを村に連れていった。ゴールデン・ローズ小母さんは私に「ローザがあまり（家庭本意）なので、エマソンさんの人達が、近く送り帰されるだろう」と教えてくれた。ダビー小母さんは私たちと朝食をとった。私は、荷物一山を、レストランとホテルに持って行った。私は夕食後、バリーの屋敷へ仕事をしに行った。一度いくつかの荷物をとりに戻ってきた時、ダビー小母さんが私に、小母さんとヴァインクリフに行ってくれと言った。それで、絵とダビー小母さんの机などを、そこへ運んでいっ

た。ウッドバイン小父さんは、野村と話していた。ダビー小母さんと私は、家に戻った。新井と私は、今日、ヴァインクリフに行った。私は沢井に数行の手紙を書き、彼の考えを聞かせてもらいたいと頼んだ。

4月22日（土）

ファーザーは今朝、〈横引きノコ〉を購入するつもりだったが、遅すぎるということがわかって、彼は行かなかった。ダビー小母さんは、ホール先生を迎えに、レストランに出掛けた。彼はグレンサイドにやって来て、ファーザーに会った。新井と私は、夕食をしにホテルに行き、それから（不明）が私に帰ってくるよう呼びに来る迄、バリーの家で掃き掃除やその他の仕事をした。ファーザーは、ホール先生を通じて持ち込まれた事で、悩んでいた。私はウッドバイン小父さんに連れられて、ダビー小母さんの代わりに出掛けた。ウッドバイン小父さんは、ホール先生とヴァインクリフに行き、ビオラ小母さんに会ったが、ひどい頭痛がして帰って来た。ゴールデン・ローズ小母さんは風邪をひき、私はホール先生に、彼女をつれて行くほうが良いか尋ねにレストランに行った。ファーザーは調子が良さそうだった。

4月23日（日）

とても良い天気だった。ウッドバイン小父さんは、私の通訳で、この世での生命のことなどについて、新井と長時間話をした。ウッドバイン小父さんは主として、遺言状と契約書などを、書き上げるのにかかっていた。私は夕食前、汚れた衣類をバードネストに持って行った。夕食後私はもう一度バードネストに行き、それからロッジへバターとアンモニアを手に入れるために行った。私は帰り道ヴァインクリフに寄り、ドーラ、テディをつれてグレンサイドに帰った。ファーザーは（不明）のようだった。ウッドバイン小父さんは、フロレッタ小母さんを連れてきた。フォースターさんは、ベッシー小母さんを連れてきた。またその後、フォスター小母さんを連れて行って、カズン・グレイスとアーサー小父さんとビオラ小母さんとクラークさんの奥さんを連れて来た。私がグレンサイドを去る前に、皆でファーザーの部屋に行った。